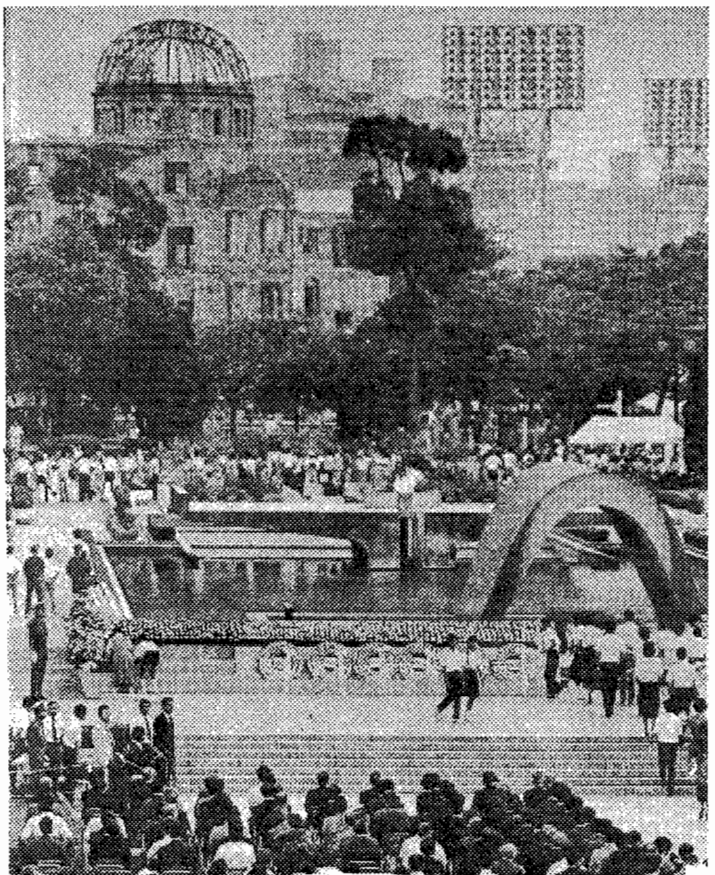


8.4-6 原水爆禁止広島大会に参加して

感想文



この一坪間にも新たに2,700人の死没者が加えられ、犠牲者は10万444人となった。

広島で新たに誓うー反核・反戦・三里塚闘争の勝利

広島大会派遣団団長
 成田支部支部長・日暮 明

私は8月4、5、6日の三日間、原水爆禁止千葉県民会議の一員として勤労千葉から他の代表メンバーと共に被爆37周年原水爆禁止広島大会に参加してまいりました。台風10号の関係で行きの新幹線が遅れたため、休暇もなく広島県立体育館での世界の被爆者と連帯する大衆集會にかけつけました。世界の国々から被爆者や各国で反核を叫んでいる人達が一一人紹介され拍手で迎えられました。体育館の中には人で埋まり蒸し風呂の様な熱さの中で集會は定刻18時に始まりました。

31反核広島大会、523反核東京集會に結集した仲間も多数参加し、「地球から全この核を無くそう」と誓い合いました。二日目(8)は、被爆者との交流会などを含めて11の会場で9時から分散集會が開かれました。私達は「オ二再処理、濃縮」の分科会に参加しました。これは専向用語が多く出てきて良くわかりませんでした。高速増殖炉「もんじゅ」の建設反対、オ二再処理の候補地の住民運動に対する支援などが確認されました。また原発は石油エネルギーを大量に消費する産業であ

り、決してその代替とはならないという事がわかりました。三日目(9)は、8時から平和公園での慰霊祭に参加して原水爆禁止千葉県民会議としての全日程を終了しました。

参加して思ったことは、37年前のあの原子爆弾が一瞬にしてどれほどの生命を奪ったか、どれほどの人の一生をだいたしにしたか、その瞬間にどのような生地獄が現出したか、今、慰霊碑の前に立って新たな思いで眼がしらが熱くなりました。全この人が反核・反戦に立ち上らなければならぬ時期にきています。今こそ「10.11三里塚闘争」への大結集をかちとり、政府・自民党の戦争政策に反撃しなければならぬ、そういう思いを強く胸にいじめて広島をあとにしました。

「ロシマを自分の中に生かして、三里塚闘争の最先頭に立ちたい」

広島大会派遣団団員・津田沼支部A生
 被爆37周年原水爆禁止広島大会に代表団の一員として初めて参加できてうれしく思いました。8月4日、5日、6日と私は千葉県民会議の行動スケジュールに合わせて暑さと雨いながら全日程をやりぬきました。

そして今、原水爆禁止広島大会を終えて、自分自身の課題として、広島に来て原爆の恐ろしさや過去の悲劇を知ると同時に、更に37年たった今も現にその後遺障害のために大変な苦しみの中で全力で生きようとしている多くの人たちがいることを自分の肌でひしひしと感じ、原爆による被害者を二度と出さないためにも核兵器の全面禁止はもとより、戦争の根源をうちくだいていかなければならない事を強く感じました。

(裏へ続く)

そして、今のわれわれにかけられている攻撃は、政府自民党が強行する行革・財政再建は、経済危機ゆえに、支配階級として一番のもうけ口としての軍需産業の育成を行ない、自衛隊に莫大な資金をつぎこみ大軍拡をおし進め、侵略のための軍隊づくりを全力をあげている。

マスコミキャンペーンを使って、ヤニ臨調基本答申を「国鉄労働運動解体」↓労働組合を、産業報国会に「してしまおう」といふ、軍事大国化、侵略戦争総動員体制づくりにしぼってかけてきている。このような行政改革の反動的意図を完全に暴露し粉碎し、反戦・反核、反安保闘争の基軸として三里塚闘争を徹底的に叩き、粉碎しなければならぬ。広島で得たものを自分の中に生かして、自分自身がその最先頭に立ち、闘っていきたいと思います。

核と戦争を許せない！

全力あげて10・11三里塚に決起したい。

広島集会派遣団員・青年部B生

青年部派遣団は一日おくれで、8月5日の11時5分広島駅に到着。ドアが開きプラットフォームに立つ。サウナ風呂のように暑い。駅を出るところには色とりどりのノボリやゼッケンが所狭しと動いている。市電を発見。映画、にんげんをかえせ、か頭にうかぶ。ヒロシマ闘争に來た実感がわいてきた。先に到着していた三里塚芝山連合空老反対同盟の人達と合流、平和公園での集会に参加。

反戦被爆者の会等を中心になされた集会実行委員会では、被爆者、被爆二世の怒りの発言、決意をはじめ、伊方原発反対住民代表、沖縄民権の会古波津さん、三里塚反対同盟から北原さん、郡司さん、関西新空老に反対する加辺さん、山本さん、また部落解放同盟の荒本支部や意岐部東小辻両支部等、全国で反戦・反核・三里塚を叩いている人々がヒロシマ・ナガサキの怒りを帝国主義打倒へ、10・11三里塚の爆発かちとれ、と平和公園へ続々と結集する万余の人々に熱烈に

訴えた。鉄輪旗をなびかせてわれわれ動労千葉からの全参加者が演壇に立ち、繁沢青年部書記長が連帯と決意表明を行い万雷の拍手で迎えられた。

15時、集会を終える頃には、折鶴行進に参加する人々で公園前はいっぱいだ。我々も折鶴行進に参加。途中、右翼の宣伝カーが妨害に來た。核の平和利用、などというパテンを我々は絶対に許してはならない。核と人類の共存などできないのだ！

17時30分、折鶴行進の終点であり、また原水禁世界大会の会場である中央公園には3万人もの人々が続々と結集した。

6日朝、パテン的な式典に怒りのデモを行ってから、原水禁世界大会の「原発と核兵器」の分科会に参加。会場の体育館は人でいっぱい。反原発を叩く住民学生・老人・学者の発言を全員くいているように聞いていた。

昼、皆で原爆ドームや原爆資料館を見学。なまなましい原爆の爪あとを眼のあたりにして、言葉に尽せぬ核の恐ろしさや怒りに身がひきしまった。こんな中、レーガンは、原水禁禁止の多くの声と願いをあざ笑うかのよう8月5日に核実験を強行した。これが帝国主義者の本性だ。絶対に許せない。こういう帝国主義を人民の力でうち倒して初めて、核と戦争を廃絶し真の平和を得ることが出来る。いっそうの力を出しつくして全力で10・11三里塚結集をかちとることを全員で確認し、広島を後にした。



米核実験 なぜ

ヒロシマが悲しみの朝を迎えた6日、「米核実験」のニュースが伝わった。被爆三十七周年の平和祈念式に国内外から参加した人たちのショックは大きく、世界に向けて核兵器廃絶を呼びかけた荒木広島市長は直ちに米国へ抗議電報を打った。原水禁(社会党・緑野派)も正午から参拜者がひっきりなしに訪れる原爆慰霊碑をめぐり米国の核実験に抗議して、緊急の座り込みをする被爆者たち(午後零時10分、広島市の平和記念公園で)